

【金融兵器として存在するアメリカのジャンク債と  
ビットコインの関係】について考える！

⇒編集後記で

~~~~~

どうもゆうです！

読者さん、こんばんは！

さてさて、昨日ですが

【2018年からはますます格差が強烈になっていく】

【本来の格差を緩和する方法とは課税ではないって話】

という号を流しました。

いずれにしてもこれから経済格差ってのは今までにないほど

広がってくるのは間違いないな〜と。

さて、それで去年までの世界金融市場で注目だった点が

ビットコインを動かしているのがどうも

アメリカの金融界の金(かね)であるってことですよね。

それで今日は【金融兵器として存在するアメリカのジャンク債と  
ビットコインの関係】について考えます！

編集後記で！

=====**編集後記**=====

さて、それで去年までの世界金融市場で注目だった点が  
ビットコイン市場を動かしているのがどうも  
アメリカの金融界の金(かね)であったってことですよ。

それで今日は【金融兵器として存在するアメリカのジャンク債と  
ビットコインの関係】について考えます！

アメリカ QE と日本のアベノミクスと欧州ドラギノミクスで  
先進国でジャブジャブされたマネーが  
どうもビットコインに入って  
去年の夏以降のビットコイン相場を作っていたのが  
メルマガで以前扱っていたことです。

この辺が去年の金融相場の動きでは重要だったと思います。  
ビットコインなんかは以前は「金の代替物になる」なんて  
言われていたけど今は「ビットコインが金(ゴールド)の敵」に  
なっているというのが面白い現象ですよ。

それで

ビットコインなんかは12月末に暴落を経験して  
また今日の時点で200万円ほどつけておりますね。

それで去年の12月10日に先物市場ができた直後  
ビットコインなんかはすごい上昇を示したわけですが

その後3週間、ビットコインの相場は伸び悩み、  
暴落をしました。

そして逆に金地金なんかは反騰しまして  
1300ドルを再度超えてきて、急上昇したわけです。

これは構造としてはビットコインにけしかけられた  
金地金がやり返している、みたいな感じですよ。

明確にどうもビットコインと金地金が戦いだしてるな  
ってのはすごい感じます。

ちなみにこれはなんでか？という去年書きましたが

一応おさらいしておきますと

やはりドル防衛をしたいのがNY金融界なわけですね。

ただここで「ドルの敵」として存在するのが「金地金」なんだけど

もしここで金地金ゴールドにお金がどんどん流れ込んで

これから金ドルの価格が

1500ドル、2000ドルと高値を更新してしまうと

やはり米ドル防衛勢力(NYウォール街)にとっては

不都合なわけです。

そんな風に金にお金が流れればドルは本当に崩壊してしまう。

ここで非常にタイミングよく大衆の前に

登場してきたのがビットコインでした。

ビットコインとNYダウのチャートが日足ベースで奇妙に

相関を夏あたりから示していたのが重要ですが

どうもこのビットコインのほうにNY金融界のマネーが

流れてきたと。

それで年末あたりなんかはNY金融界の言うとおりに報道を

展開する日本のマスコミもビットコインという言葉を連呼して広告出しまくって

ここで大衆に買わせたわけですね。んで暴落。

そして多くの素人投資家さんの冬のボーナスを根こそぎ奪ったあとに  
けどまたケロットと価格を200万円台までビットコインは  
戻ってきてるって感じです。

ただこうやって多くの投資家の資金がビットコインに  
集中することで金地金に資金が向かわないで済みますから

そういう意味ではドルの敵である金地金に  
マネーが流れないようにビットコインが登場してきた  
という見方になるわけですね。

分かりやすく言うとドル防衛隊の中にビットコインというのがいるのだ  
ということです。

んで最初はビットコイン信者だったロジャーバーとかが  
ビットコインを最近ディスりまくってるのは  
彼なんかはビットコインが2017年にNY金融界の傀儡になってしまった  
というを見抜いてるのでしょうか。

これは田中宇先生の分析なんだけど私はこの見方が  
正しいと思っています。

それで重要なのが金地金っていうのは中国とロシアなんかの  
BRICS 勢力に支持されてるわけですね。

んで一方ビットコインってのはアメリカの金融界に  
支持されてるわけです。CNN がやたら去年ビットコイン推してた  
のはその辺が理由ですね。

ちなみにこのアメリカ金融界なんかのやり方ってのは  
同じアメリカの覇権勢力として軍産やアメリカの諜報機関があるけど

これらが以前アルカイダから分派する形で  
ISIS を支援し、育て上げたってのと似てますよね。

アメリカ人たちなんかは ISIS 作ったのはアメリカだ、  
なんて知ってたりするけど

これとビットコインは似ていて、ビットコインはある意味 ISIS  
でして、NY 金融界のマネーが流れて市場が形成されてるコインですよ。

それでもうビットコインは世界の金融政治に組み込まれていて

ビットコイン VS 金地金の戦いってのが出てきたわけでした

これはパレスチナ問題とかなんかのロシア中国サイドと、アメリカ側の

地政学的なやりあいにも連動してるのではないか、

という指摘も出てきているくらいです。

それでこれは田中宇先生なんかは正月に分析として書いていて

私が注目していた見方なんだけど

「じゃあ金地金とビットコインが戦ってる状態ならば

どっちが強いのか」

ということなんだけど

今の時点ではやはりまだまだビットコインという

アメリカ金融界のジャブジャブマネーのポートフォリオが割り振られてる

仮想通貨のほうが強い感じがありますよね。

それでこの辺の「どっちが強くなるか」っていうのを

シナリオ建てていくために、

やはりアメリカの「ジャンク債の金利」ってのが大事になります。

ジャンク債の金利がもし5%前後なら全然いいとされるわけですけど

逆にジャンク債の金利が8%9%10%となっていくと

やはり金融危機といわれる現象になっていくわけですね。

それでこのジャンク債利回りはここ最近、ずっと5%台の前半で

推移しております

まあこのジャンク債の金利が低い限りは、

ビットコインやNYダウの背後にいる

アメリカ金融界の勢力が強いのだろうと思います。

というのはビットコインとかの上昇に関しては実際のところは、

ジャンク債なんかの

アメリカの金融界が発行して作った資金があるんだけど

その資金(いわゆるジャブジャブマネー)をビットコイン市場に流し込んで、

具体的には

ポートフォリオを一部割り振ることで吊り上げるわけですね。

それで逆に同時期に金先物相場の上昇を抑止するように、

空売りを仕掛けるわけですけど

実際はこういう相場でのオペレーションがされていると思います。

ちなみにこのジャンク債についてはよくメルマガで

書くんですけど

やはりアメリカ金融界の金融装置として重要なのが



このジャンク債なんですね。

はっきりいえば

「無から金を生む」

~~~~~  
ってのが可能なのがジャンク債なんです。

^~~~~~

実はアメリカのジャンク債なんかは担保となっている

資産の価値や存在が非常に曖昧なわけですね。

実質無担保状態の債券だったりもする。

まったく住宅ローン返せない貧乏な人にバンバンお金貸していた

「サブプライムローン」とか覚えていると思いますが

どんだけいい加減なんだ、というのが当時言われたものだけど

あれなんかはそのローンを債券化していたわけですけど

それが後にサブプライムショックとして金融市場に打撃を

与えました。

全然ローン返せない人たちに対する

不良債権を束ねられて債券として売られても

困りますけども

こんな感じでジャンク債ってのは

特徴として資産の価値とか

存在が曖昧な債券でして、まさに無から有を生み出すっていう

ある種の金融装置になってるわけですね。

それで、このジャンク債の金利が5%前後で低いままなら

NY 金融界なんかはその金融装置を利用して

債券を発行してどんどん「無から有で」お金を作れるわけですね。

逆にこのジャンク債金利が8%9%とかになってしまうと

危険で、そうなるとビットコインの価格上昇の原資となってる

資金を無の状態から作りづらくなるわけです。

今なんかはどっちの状態かというと

ジャンク債の利回りが5%前後だから、

となるとアメリカ金融界は2018年は

まだまだ強いということが今のところ、

いえそうです。

今はジャンク債の金利が5%前後なので、

ということはビットコイン高と金地金安を演出できる状況ですね。

中国ロシア側を吹っ飛ばす金融兵器として機能しているのが

アメリカ金融界の

ジャンク債市場だけこの金利が5%前後で安い状態ですから

アメリカ金融界はどんどんお金を無から作り出せる状況です。

となるとこれから中国ロシアなんかは政治情勢では

かなり力を増してくるのは間違いないんだけど

こと金融部門に関してはアメリカ金融界がまだ粘って

優勢な状況が続きやすい傾向が短期中期的には考えられる

ということですね。

だから例えば金地金なんかについては

ある範囲の中で動いたりはあるだろうし

また今なんかは上がりそうですけどもやはり

途中でNY金融界のネーキッドショート空売りに攻撃されながら

ちょっとづつ上がっていくという感じになるかもしれませんね。

金地金が爆発的に暴騰するのはやはりこのジャンク債市場が崩れた後

になるわけですね。

ただその時のために今から金地金ゴールドを仕込んでる

金持ちたちもたくさん世界にはいますね。

ちなみに今号では「ジャンク債の見方」についても書きますけど

これは田中先生なんか教えてらっしゃったけど

この英語のサイト。

[http://cbonds.com/indexes/indexdetail/?group\\_id=153](http://cbonds.com/indexes/indexdetail/?group_id=153)

このサイトの右側にチャートがあるけど

チャートのタブを

**HW00, effective yield**

というのに合わせていただいて

そこで「3Y」(3年)とかにあわせるとすごい

見やすいですね。

2016年の1月2月の大ショックのとき、

このジャンク債の金利は10%近くまで跳ね上がってるけど

今なんかは相当低い位置でして

5.2%なんです。

となると、ここで「ということはこれからもアメリカ金融界が

無から有を作り出すジャブジャブマネーを継続して資金を作り出せるから

それがビットコイン市場に流れてくる傾向は強くなるな」

みたいに見ることはできるんですね。

ジャンク債チャートというのはやはり大事だと思うので

定期的に見ると良いと思いました。

それでこの金利低下を見るに、まだまだアメリカの金融界は

強い潜在力を持っているといえまして、

もちろん国際政治的にはもうアメリカがどんどん力を

失っていて中国ロシアが台頭してることは間違いないのだけど

ただ金融部門ではまだまだアメリカ金融界が粘っている

と言えますよね。

それで2018年の前半、中盤あたりはどうも

アメリカ金融界は強そうだと、というのが私の今のところの

見立てでありますけど

もしこれが2020年前後にきっかけがあって

大きな転換があるとするれば、

それはやっぱり「最初に」

ジャンク債の上記チャートに異常が出てくる

んですね。

具体的には金利が8%とか9%まで上昇していく。

これが本当の次の時代の世界の多極化への始まりとなると  
思いますが

それは2020年前後ではないかな～なんて思いますよね。

それまではしばらくNY金融界が創造しているバブルの中で  
人々は生きていくということになりそうです。

それで、このNY金融界の金融バブルですが

ここで重要なのが今年の2月にはFRBの議長がイエレンから  
パウエルに交代するわけですね。

イエレンといえぼなんとかドル防衛のために

FRBのバランスシートが拡大しすぎて不健全になったから

それを縮小しようとしていたわけですけど

そこでたびたび利上げを繰り返しました。

QEのジャブジャブマネーで買い込んだジャンク債を

どんどん売り放つということをやりましたわけですね。

ただ次の2月からFRB議長になるパウエルですけど

彼なんかはFRBのバランスシートを健全化させるなんて

おそらく興味ないでしょうから

(意図的にバブルを膨らませて米国覇権をつぶそうとする人であろう

と思う)

そうなるとパウエルとしては金融バブルをもっと維持するか

さらに拡大するか、というところになってくるかもしれません。

ちなみにイエレンはトランプ大統領から

「お前もっとジャブジャブマネーしろ」と言われて

断ったわけですね。

「そんなことしたらドルが本当にやばくなってしまふ」

というイエレンの考え方はまあアメリカ帝国覇権サイドの考え方としては

正しいわけです。

ただトランプとしてはアメリカ覇権を崩していきたい人ですから  
(ある意味「意図的な自爆」をしたい大統領)

「いいんだどんどんジャブジャブマネーをして

バランスシートを拡大していずれ崩壊させてしまえ」

ですから、

ここでパウエル登場ってことあんですね。

パウエルが FRB 議長に2月からなったらそれなので

FRB の健全化どころか QE=ジャブジャブマネーの

バブルを縮小ではなくて

拡大、もしくは維持していく方向になりそうです。

ただこれは同時に

まだバブルを延命していきそうですよね。

それでこれからアメリカ金融界もロシア中国サイドから

金融攻撃を受けて、一時的に金融相場急落の事態が

今年起こると思いますが

ただそこでもまだ、彼らアメリカ金融界は

QE を再拡大したりする「余力は」

現状、ありそうだと、ということですね。

いずれにしてもどれだけその暴落とかがヤバいのか

ってのはジャンク債の金利を見ればかなり分かりますので

ジャンク債金利を見ていくっていうのを



日常化するとよく世界の動きが見えてくるので良いと  
思いました。

逆にジャンク債の金利が低いままなのに

NY 金融界が支えてる市場のチャートが崩れればそれは元に戻る  
確率が高いと言えますので、そういう押し目フィルターとしても  
使えると思います。

それで今面白いのがアルトコインだったりするんだけど  
ビットコインがそこまで上がっていない時でも  
アルトコインは結構元気があったと。

もう既に NY 金融界の傀儡になってしまってるビットコインではなくて  
アルトコインなんかで投資する投資家も増えてるようです。

今年はビットコインが大して上がらなくても  
アルトコインが上がっていくという現象が初めて観測される  
年にもなっていきそうですね。

ということでビットコインなんかはアメリカ金融界の傀儡になってる  
感じですが

そんな中アルトコインで面白いものを探していくってのも  
大事になってきそうですね。

ただ今はビットコインが仮想通貨の機軸通貨となっておりますから  
影響力を保持しているわけですけど

このビットコインってのはNY金融界傀儡であって  
ジャンク債の金利にかなり影響を受けるだろうと想定されるので

上記説明した、ジャンク債金利チャートなんかも分析に組み込んでいくと  
今年はより精度が高くなりそうです。

金融市場全体を見て、俯瞰して相関性を見ていくってのは  
結構大事なので練習していくと良いと思います。

それでは！